

北の縄文パネル展2020

2021年の世界遺産登録をめざす「北海道・北東北の縄文遺跡群」及び北海道内の縄文文化の魅力を写真パネル等の展示により、わかりやすく伝える「北の縄文パネル展2020」を先月開催の留萌図書館に引き続き、今回は留萌振興局で開催しています。

日時：令和2年2月3日（月）～2月18日（火）

場所：留萌合同庁舎1階 道民ホール

◎展示パネルの紹介

1 「Let's 北の縄文」

様々な文明が生まれては消えていった世界の歴史の中で、縄文文化は1万年以上にわたり、大きな争いもなく続いた貴重な文化です。

人々は、厳しくも豊かな自然と謙虚に向き合いながら、狩猟・漁労・採集を生活の基盤とし、共生と循環の思想のもと、こころ豊かに暮らしていました。

縄文文化は、日本列島全体に展開されていますが、北海道と北東北には、たくさんの共通性があり、津軽海峡を挟んだ交流が盛んだったことがわかっています。

様々な文明が生まれては消えていった世界の歴史のなかで縄文文化は、1万年以上にわたり、大きな争いもなく続いた貴重な文化です。人々は、厳しくも豊かな自然と謙虚に向き合いながら、狩猟・漁労・採集を生活の基盤とし、共生と循環の思想のもと、こころ豊かに暮らしていました。縄文文化は、日本列島全体に展開されていますが、北海道と北東北には、たくさんの共通性があり、津軽海峡を挟んだ交流が盛んだったことがわかっています。

縄文時代はどのくらい前なのか、年表で比較してみよう!
北海道は本州とも異なる独自の文化があったんだ!

10,000 BC	8,000 BC	6,000 BC	4,000 BC	2,000 BC	0 BC	AD 100	AD 300	AD 600	AD 1000
縄文時代	縄文時代				縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代
縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代	縄文時代

「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界遺産に!

縄文遺跡群ロゴマーク

千歳高台遺跡(千歳市) | 入江貝塚 遺跡(札幌市) | 旭ノ丸遺跡(札幌市) | 大塚遺跡(札幌市) | 大森遺跡(伊達市) | 野ノ倉遺跡(白川町)

縄文の人々は、何を考え、どのような暮らしをしていたのでしょうか。展示パネルをご覧ください、縄文文化の扉を開けてみてください。

2 「土器にどきどき！ 土偶にぐ〜！」

縄文土器は、様々な縄目の文様が付けられ、その美しさと高い技術が評価されています。土器の誕生により、食べ物の煮炊きや貯蔵が可能になりました。また、土偶には、乳房や妊婦の姿が表現されているものも多く、命の誕生や再生、豊かな恵みへの願いが込められており、祈りや祭りの道具として使われていました。



3 「自然の中の暮らし」

縄文の人々は定住し、森・川・海で狩り・漁・採集を行っていました。貝塚や住居の炉跡などから出土したのからどんなものを食べていたかがわかります。



4 「おしゃれな縄文人」

縄文の人々は、粘土・石・木・貝・骨などでつくったアクセサリー（装身具）を身につけていました。これらは、お守りや指導者の権威の象徴、成人の証などでもあったようです。

5 「海を越えて大冒険」

縄文時代には、ヒト・モノ・情報が海を渡って大きく動いていました。

おしゃれな縄文人

縄文の人々は、粘土・石・木・貝・骨などでつくったアクセサリー（装身具）を身につけていました。これらは、お守りや指導者の権威の象徴、成人の証などでもあったようです。

- 貝殻のピアス（ピアス）
- 石製のブレスレット
- 木製のペンギン（ペンギン）
- 石製のブレスレット
- 木製のペンギン（ペンギン）
- 石製のブレスレット
- 木製のペンギン（ペンギン）

海を越えて大冒険

縄文時代には、ヒト・モノ・情報が海を渡って大きく動いていました。

縄文時代にアスファルトが？

アスファルトは、道路の舗装などに用いられていますが、その粘着性や防水性から、お守りや指輪などに用いられていました。土器の中に入ったお守りや、棒の状態で出土するものもあります。アスファルトは、石造りの遺跡で産出され、産出地から出土したものは、分析の結果、材料産地のものも分りました。

北海道にイノシシ？

縄文時代の縄文遺跡から、生息していないイノシシの骨が見つかることが多くなります。イノシシの骨や人の骨の骨粉のように加工した骨製物、イノシシのすくも（イノシシの骨）も出土しています。縄文の人々も家畜から肉でイノシシを選び、飼育していたのかもしれない。

6 「縄文人のころ」

縄文後期のはじめ頃（約4,000年前）から石を環状に並べた環状列石（ストーンサークル）が築かれ、様々な儀式が行われたり、お墓がつくられるようになりました。

縄文人のころ

縄文後期のはじめ頃（約4,000年前）から石を環状に並べた環状列石（ストーンサークル）が築かれ、様々な儀式が行われたり、お墓がつくられるようになりました。

環状列石は、土器や石製の道具や装身具が出土することがあります。

環状列石とは、縄文の人々の共同墓地です。円形に大きな墓穴を掘り、その間に土を積み重ねて土間に盛り上げてつくられています。

子どもへの愛

縄文初期の終わり頃（約5,000年前）の遺跡から、子どもや若年層の土器に押しつけてある赤い土製の土製品が出土することがあります。これらは土製の土製品に押しつけてある赤い土製の土製品です。

夫人の墓から出土することから、たぶん子どもを埋葬して、墓がその形も土製品に押しつけて、墓がなくなると同時に埋葬したとされています。

また、子どもの成長や健康を願って作られたと考えられています。子どもを大切に育てる気持ち、育ちも変わらないうえです。

4,000年前の介護

茨城県大井町江原の遺跡から縄文後期の若い女性の骨が出土しました。骨が腐敗に陥る前から、小さい頃からかかっていたボロボロ（小児麻痺）という病気の後遺症で、手足がまひしたためと考えられています。墓たけりの状態で、墓の入り口に安んじられ、20歳前後まで生きただろうです。